

椎堂部落有文書概要

- 1: 文書群番号 081002
- 2: 文書群名 椎堂部落有文書
- 3: 出所 椎堂村
- 4: 家業・役職等
- 5: 地名 摂津国川辺郡椎堂村／兵庫県川辺郡椎堂村／川辺郡園田村椎堂／尼崎市椎堂／尼崎市椎堂1丁目ほか
- 6: 行政区分 ①幕府領・大坂城代領／幕府領／武蔵国忍藩阿部氏(忠吉系)領／幕府領／兵庫県第12区／下食満組戸長役場／園田村／尼崎市、②旗本大島氏(光義系)知行所／幕府領／武蔵国忍藩阿部氏(忠吉系)領／幕府領／兵庫県第12区／下食満組戸長役場／園田村／尼崎市
- 7: 歴史 椎堂村は市域北東部、猪名川と藻川の間に位置する。史料上の初見は文禄3年(1594)の『椎堂村検地帳』(門田隆夫氏文書、『尼崎市史』第5巻)。
近世初期には村の大部が幕府領または大坂城代領、極小部は旗本大島氏(光義系)の知行所、寛永14年(1637)幕府領。元禄5年(1692)全村幕府領となり、同7年武蔵国忍藩阿部氏(忠吉系)領、文政6年(1823)幕府領となった。
村高は文禄3年、慶長10年(1605)に359石余、元禄15年に373石余、天保5年(1834)に378石弱とある。また寛延4年(1751)に百姓本人37人・水呑百姓5人、ほかに6人、安政5年(1858)に家数41軒、人数207人とある。水利は三ツ又井組に属した。氏神は十九(とく)神社(近世には十九社明神)、寺院は浄土真宗本願寺派吉祥寺。
明治22年(1889)以降は園田村の大字となった。
- 8: 伝来 市史編集室時代に調査済みであった本文書群を、昭和56年に椎堂部落農会が史料館へ寄託。
近世期は椎堂村の庄屋、近代以降は椎堂部落農会の農会長が持ち回りで保管していた文書群である。
- 9: 史料入手先 椎堂部落農会
- 10: 点数 254点(目録件数251件)
- 11: 年代 寛政10年(1798)～昭和41年(1966)
- 12: 構造と内容 本史料群は、①地廻帳(検地帳)他年貢関係史料、②田畑地券願帳等、地租改正に関する近代の土地関係、③村政関係、④氏神である十九神社関係、⑤水利関係の史料などからなる。②～⑤はいずれも近代史料であるが、明治期、とりわけ0年代～10年代のものがまとまっている。
②については、他に村域等の境界を示した絵図がまとまっている。③は集会場建築費収支決算帳などがある。④は寄進帳や玉垣建設に関連する史料、⑤は椎堂部落農会が管理に関わっていた猪名川堤防、藻川改修工事のほか、利倉井堰、西島池などに関する史料がある。
- 13: 関連史料 門田隆夫氏文書(1)(2)、橋本正隆氏文書ほか
- 14: 閲覧条件 原本
- 15: 作成者 河野未央